



「うるま市海外短期留学派遣事業」が7月23日から8月20日の日程で行われ、市内の中学生10名が、アメリカ合衆国ワシントン州シアトルへ短期留学しました。
子どもたちは、約1か月間の留学を通して、感謝の心や異文化についての理解を深めました。

ホームステイに参加して
高江洲中学校 2年 儀保 美月

私は、心からこの海外ホームステイに参加できて良かったと思っています。また、この経験をきっかけに、将来の夢への第一歩が踏み出せたと思います。出発の日が近づくと、期待の反面、「アメリカの環境についていけるだろうか」「言葉は通じるだろうか」という不安もありました。

アメリカに着いたらまず入国審査があり、引つかからないかとても心配でした。その審査も無事に済み、安心して気持ちになったのを今でも覚えています。そして、ホストファミリーの待つかスタディセンターへバスで向かい、そこで私はホストファミリーと対面しました。まず最初にハグをされて、少し違和感を感じたのですが、これがアメリカの挨拶の仕方なんだと肌で感じました。また、それと同時に、これから約1か月間ここでホームステイするんだと、とてもわくわくしました。
私のホストファミリーは、ホストファミリー、ホストマザー、そして女4人姉妹の6人家族で、とてもユーモアがあつてにぎやかな家族でした。



ホストファミリーと

最初は、言葉がなかなか通じず泣きそうになった日もあったけど、そんな私をいつでも優しくサポートしてくれたのが、私のホストファミリーでした。それだけでなく、時間の許す限り、ショッピングや教会または雪山などいろいろな所へ連れて行ってくれて私を楽しませてくれました。一番に私の事を気にかけてくれたり、一番に私のことを考えてくれたりと、ホストファミリーには、数えきれない程たくさんのお優しさをもらいました。このホストファミリーだからこそ、別れの時は本当につらくて、もつと留学期間が長ければと思いました。最後の日に、ホストファミリーから、「私達はいつでもあなたがこの家に戻って来ることを望んでいるわ」と言われた時には、涙が止まらず、私は、「絶対戻って来るよ!! See you again!」と告げました。

次に会う時は、私はもつと英語が話せるようになって、ホストファミリーと私がホームステイしていた頃の思い出話ができるようになりたいです。ま

た、ホストファミリーに伝えることのできなかつた皆さんの感謝の気持ちを伝えたいです。

私は、このホームステイを通して、さらに英語が好きになれたし、将来は英語を生かした仕事に就きたいと確信を持つて言うことができます。
これからも私は、この体験を無駄にせず、いろいろなことにチャレンジし頑張っていきたいです。

ホームステイを体験して
石川中学校 3年 国吉 光希

初めての一人旅は、異国の地で、しかも1か月という長い期間でした。飛行機に乗っている間考えていたことは、「どんなホストファミリーなんだろうか」とか「自分の英語は通じるのかな」等で、楽しみというより、とても不安でした。しかし、ホストファミリーと会って、ホストファミリーが「リラックス、リラックス」と、繰り返ししてくれている間に緊張感も抜けてきて、段々この1か月が楽しみになってきました。

私のホストファミリーは、お父さん、お母さん、十六歳の兄、七歳の妹の4人家族で、英語を上手く話すことが出来なかつた私をあたたかく受け入れてくれ、いつも私のことを優先的に考えてくれました。

ホームステイ期間中は、月曜日から金曜日までスタディセンターで英語のクラスがありました。そこでは、アメリカンヒーローといつて、同年代のア

アメリカの子どもたちと一緒にゲームをしたり英語を教えてもらったりしました。又、週に1〜2回はショッピングに行ったり、プールで泳いだり、シアトル市内を観光したりしました。土曜日、日曜日は、ホストファミリーと過ごす日で、私は海、山、ショッピングに連れて行ってもらいました。
1か月は、あつという間で、日本で想像していたよりずっと充実した毎日を過ごすことが出来ました。アメリカに来て一番学んだことは、家族や友達とはとても大切だということです。いつも一緒にいただけじゃ気付かないありがたさを学ぶことができました。ホストファミリーも、たった1か月だったけど、私のことを実の娘のように可愛がってくれて、帰る日は、本当の家族と離ればなれになる感じがしました。日本に帰ったら、アメリカで学んだことや感じたことを皆に教えていきたいと思っています。あと、自分の英語がもつと上手くなったら、ホストファミリーやよくしてくれた人達に会いに行きたいと思っています。



留学した仲間たちと私 (左端)